



キタケイ・レポート

地域に根ざした住まいづくり・地域住宅産業を支援します。

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、格別なるお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、台風や地震など自然災害が多く発生し大変な年になりました。

一方、経済全般については、これまでの閉塞感から、ずいぶん明るい話題も多く、当住宅関連業界においても、全般的には順調に推移したようです。

明けて、本年の経済全般についても、昨年に続いて、まずまずの年になってほしいものです。

本年、当社では、KBS登録店の皆様方へ「こだわりのある家」「より合理的な工法」のご提案などをおして、昨年以上に当システムをご活用いただけますよう、一層の努力をしております。

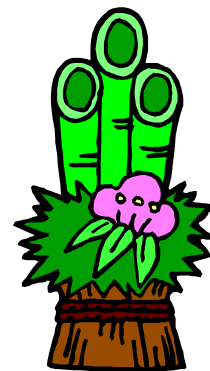
皆様方には、より一層のご指導、ご鞭撻、ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ご事業のますますのご繁栄を心よりご祈念申し上げます。

北恵株式会社

代表取締役

北村良一



新年特集

今年の住宅業界の重点項目はこれだ！

新しい年を迎え、これからの新たな決意と目標を定められた方も多いのではないかと思います。

年頭に当たり、今年の住宅業界で注目し、又対応していかなければならない事柄について考えてみたいと思います。キーワードは次の二点ではないかと思います。

「環境調和」と「安全と安心」

これらの言葉のもとに次のようなことが、テーマになってくるのではないのでしょうか。

- (1) 待った無しの省エネルギー対策
- (2) 急がれる防災・防犯対策
- (3) 個人情報保護法に如何に対応するか
- (4) 住宅性能表示制度の利用促進

目次

新年のご挨拶

新年特集：

今年の住宅業界の重点項目はこれだ！

(1) 待った無しの省エネルギー対策

(2) 急がれる防災・防犯対策

特集2：

省エネルギー対策を進めよう！

(3)(4)は次号に掲載いたします。

(1) 待った無しの省エネルギー対策

2月に「京都議定書」発効！ 官民挙げての対応が迫られる。

1997年に採択された、先進国に二酸化炭素(CO₂)など、地球温暖化ガスの排出量の削減を義務づけるいわゆる京都議定書が、ロシアが批准したことによって、本年2月16日よりいよいよ発効されます。

日本もこの議定書を批准していますので、約束を実行しなければいけません。日本に課せられた義務は、2008年から2012年までの5年間の平均で、1990年の温暖化ガス排出量から6%削減することですが、現在すでに逆に7%近く増加していますので、1990年比で合計13%もの削減を図る必要があります。

企業の生産分野、トラック利用の輸送分野や、住宅や自家用車での家庭分野、それぞれの分野で対策を強化していかないと削減目標を達成できません。政府、業界では、温暖化ガスの排出権の売買も考えているようですが、まずは、足元から削減策を実行していくことが大切となります。各省庁でも、温暖化防止のための来年度予算として合計で1兆3千億円を超える予算を考えており、強い意志を持って望む姿勢となっております。省エネルギー対策強化は待った無しです。

住宅の省エネルギーにも拍車がかかる

これまでこのレポート紙上でも、「一層省エネルギー対策を進めよう！」というタイトルで、住宅の省エネルギーについて考えておりますが、現実に省エネルギー対策のテンポを住宅建設の関係者で一段と速めて、効果を上げていく必要があります。

- ・ 次世代省エネルギー基準の実現促進
 - ・ 省エネルギー機器の開発と利用促進
 - ・ 省エネルギーのための技術の開発と利用促進
 - ・ 省エネルギーのための消費者・住宅供給者の意識の改善
- など、ひとつひとつ前に進めていく必要があります。

国土交通省では、断熱リフォームの推奨など、省エネルギーの実現に向けて、力をこめて積極的に対応していく姿勢です。従って、新築時の省エネルギー対策に加えて、既存住宅の省エネルギーのためのリフォーム工事も増加してくるものと予測されます。われわれも、このような需要にいち早く対応していかなければなりません。今年「省エネルギー」への対応の年といえそうです。

平成17年度地球温暖化対策推進大綱関係予算 概算要求(単位:百万円)
主な項目についての予算額

対策分野	16年度予算額	17年度要求額	増減
エネルギー起源のCO ₂ 排出量削減対策(省エネ対策)			
産業部門の需要面での対策	16,091	37,779	21,688
民生部門の需要面での対策			
機器の効率改善対策	2,547	18,061	15,514
住宅・建築物の省エネルギー性能の向上	25,031	26,383	1,353
エネルギー需要マネジメントの強化	258	2,473	1,855
運輸部門の需要面での対策			
自動車交通対策	9,938	6,334	▲3,604
環境負荷の小さい交通体系の構築	124,376	145,933	21,557
エネルギー供給面のCO ₂ 削減対策			
新エネルギー対策	141,778	140,934	▲845
温室効果ガス吸収源対策の推進			
森林・林業対策の推進	385,145	437,168	52,023
京都メカニズムの活用(排出権売買など)	4,999	9,964	4,964
予算の総合計	1,258,548	1,341,533	82,950

出典：経済産業省ホームページ「平成17年度地球温暖化対策推進対抗関係予算概算要求(内閣官房取りまとめ資料)」より弊社作成

(2) 急がれる防災・防犯対策

高まる住宅の安全性確保に対する要求

リフォーム需要の増大

地震や台風の多い日本では、住宅に関する防災対策といえば地震対策と台風対策といった躯体の安全性の確保ということになります。昨年も各地で地震が多く発生しており、住宅の耐震性の確保は急務といえます。これまでレポートでみてきたとおり、既存住宅には耐震性に問題のある住宅が多いといわれています。今後既存住宅の耐震診断を行い、リフォームによる安全性の確保や、建て替え等を行う需要が多くなっていくと思われれます。国土交通省も耐震改修の促進を目指して、耐震改修のコストに対する減税措置を導入する計画です。

これらの需要に対応していくためには、耐震性など、住宅の性能に関して、分かり易い言葉と説明で、消費者を安心へと導いていくことが望まれます。そのためには、設計・施工面での構造に関する技術的水準を上げていく必要があります。社員の教育と実践による技術的強化を急ぎましょう。

強化される防火対策

昨年、人命と財産の安全性を確保する観点から消防法が改正され、住宅火災を早期に見つけて早期に消火活動と避難を行えるように、住宅用火災警報器の設置基準が強化されました。特に高齢化社会を迎え、高齢者が火災発生時に逃げ遅れ、事故に巻き込まれることの無いようにするという目的もあります。この改正消防法は、既存住宅にも適用されますので、今後警報機器類の設置のリフォーム需要が出てくると思われれます。顧客の要望に適切に対応していくことが必要となります。

泥棒をシャットアウト 高まる住宅の防犯性能

最近多く発生しているのが、住宅への不法侵入による盗難事故です。昨年、窃盗犯が家屋に進入するのを5分以上防ぐ防犯性能の高いドアや窓、鍵などの住宅部品が公表されました。将来的には、防犯性能は、基準を設定して住宅の性能評価項目に追加されるといわれております。今後新築住宅での設計の際、又リフォームにおいて、防犯性能の高い部品への利用要求が高まるものと予測されます。

特集 2

省エネルギー対策を進めよう！

住宅の省エネルギーを考える(4)「断熱の方法」

< 断熱の方法 >

断熱する住宅の部位

住宅の断熱を行う場合は、住宅を断熱材で覆うような形になります。断熱材を施す場所は通常、屋根、天井、壁、床となります。それぞれの部位で施工のやり易いところ、やり難いところがありますので、施工の仕方や、使用する断熱材の種類も異なってきます。

二つの断熱の方法

断熱の方法としては、大きく分けて「充填断熱」(内断熱)と「外張り断熱」(外断熱)の二つの方法があります。断熱材を設置する場所が、躯体の内側の場合が「充填断熱」で、躯体の外側の場合が「外張り断熱」です。一般的には正しく施工されていれば、両者の断熱性能に大きな違いはありません。

< 充填断熱について >

充填断熱

充填断熱は、壁など軸組みの間に、グラスウールやロックウールなどの断熱材を隙間がないように詰め込んでいく方法です。これまでこの方法が一般的で主流となっていました。

屋根は垂木の間に 天井は天井面に 壁は柱・間柱の間及び外壁と内壁の間に 床は床組み材の間にそれぞれ断熱材を詰め込んでいきます。

正しい施工で、結露の防止が必要

この方法では、構造材と断熱材が一体となっていますので、仮に断熱材を組み入れた空間内（壁の中など）で結露が発生すると、構造材を腐らせる可能性があります。空間内（隙間）に水蒸気が入り込まないように防湿層を設ける必要があります。空間内の結露防止のために通常防湿シートを隙間がないように張り、水蒸気を遮断する方法がとられています。

断熱材を詰めこむ作業や防湿シートを張る作業そのものは特に難しくはありませんが、壁の中には様々な障害物がありますので、「隙間なく設置していく」という作業は、正確さと、緻密さが要求され、難しい作業であるといえます。つまり壁の中には、間柱や筋交いが通っていますし、コンセントのキットもあります。又電気のコードや水道などの管が通っている場合があります。これらの障害物をかわしながら、断熱材を隙間なく正しく設置していかなければならないわけです。

正しく施工していないと、断熱材が空間内でずれ落ちて、隙間ができたり、防湿シートの隙間から、空気と水蒸気の進入がおこったりして、壁内での結露の問題や、断熱効果が上がらないといった不具合が発生する可能性があります。

この工法は特に施工が大事であるといえます。

「隙間をなくす」方法として、「吹き込み」や「吹き付け」などの工法が導入されています。又作業の手間を省くために片側に防湿シートが加工された耳つきの袋入りの断熱材が開発されています。起こる可能性があるいろいろな問題点を考え、問題を少なくするための様々な工夫がなされているわけです。

< 外張り断熱について >

外張り断熱

外張り断熱は、家の外側をすっぽり覆うように、躯体の外側に断熱材を張って断熱層を設ける工法です。連続した断熱層を設けられるのが特徴です。

屋根・天井は屋根垂木・小屋梁・軒桁の外側に 壁は柱・間柱の外側に

外気に接する床は床組み材の外側に

それぞれ断熱材を張ります。

複雑な形状の家への対応とコストが課題

この方法では、釘や金具で硬質ウレタンフォームや発泡ポリスチレンフォームなどの発泡プラスチック系の断熱材を隙間なく躯体に貼り付けていきます。

簡単に連続的に施工ができて、隙間ができ難いのが特徴です。又断熱層が躯体の外側にありますので、仮に結露が発生しても、躯体が腐る心配はありません。

ただ、難点は資材の発泡プラスチック系断熱材のコストが高いことです。

又、施工面では、形状の複雑な建物の場合に作業が難しくなることや、躯体の外側に断熱材を張っていくことで壁の厚みが増加しますので、狭い敷地の場合に断熱材の留め方に工夫がいるなどの解決すべき問題点があります。 次回は「気密」について考えます。